

# 和光病院 だより

Vol. 5



# 暑中お見舞い申し上げます



## ご挨拶

人の輪を広げる努力を



院長  
齋藤 正彦  
さいとう まさひこ

和光病院では、認知症を中心とする老年期の精神科疾患を対象とした外来診療、入院診療に加えて、2年前から、ご家族の支援、市民啓発、医療・福祉分野で働く人の研修、老年期医療に関する研究など、活動の幅を少しずつ広げてきました。今年度も、本来の仕事である、外来、入院医療の質の向上に加え、これらの周辺活動を充実していきます。

私が、病院の診療業務以外の仕事を充実させたいと考えるのは、高齢者の医療が、ご家族の状況、福祉機関の状況、さらには、それを包含する社会の状況に支えられていると考えるからです。認知症を引き起こす病気の大部分は、本質的な治療が望めない病気です。それでは、絶望的な病気かといえ、それでもないと私は思います。



世の中には身体的・精神的に障がいを抱えた方がたくさんいます。身体や精神の状況が完全でなくとも安全に生きていけるような社会であれば、治らない病気になっても、だから不幸だ、絶望だということにはならないでしょう。安全が保証された社会で、幸福になるか不幸になるかは、障がいの有無によるのではなく、一人一人の心の有りようによります。色々な病気や障がいを受容する、懐の深い社会の中に病院があるのなら、病院の仕事はずっとやりやすくなるはずです。ですから、病院という組織を通じて知り合った患者さんから、ご家族へ、関連する地域の福祉、医療機関の職員、たまたま、ご近所になった地域住民の皆さんへと人の輪を広げる努力を、今年度も続けて行きたいと思っています。

広報活動評価される

事務長 町野 譲  
まちの ゆずる

平素より当院に対しまして、ご理解ご支援を賜りありがとうございます。私たちは、日々患者さんの身になって、患者さんと同じ目線で、診療及び院務運営にあたっております。また音楽療法やイベント、レクリエーション等も取り入れながら、患者さんのお世話をするように努めています。

さて今年度から翠会ヘルスケアグループに「本部表彰制度」が設けられ当院が表彰を受けました。翠会ホームページへの投稿、病院のホームページの作成、「和光病院だより」の発行など、種々の広報活動が広く評価されたものと思います。6月26日、新貝理事長より横島広報副委員長に表彰状及び副賞が直接手渡されました。これを機にさらにスタッフ一同患者さんのために頑張りたいと思います。

和光病院のホームページも是非ご覧ください。



## 看護部長挨拶

看護部長 藤森 美栄

和光病院に入職して1年半が経過しようとしています。この間、医療安全に関わる業務等を中心に担当してきました。前任者の退職に伴い、今年2月から看護部長代行、そして6月から看護部長を命ぜられ気持ちを新たにしております。認知症専門病院としての役割を担う当院において、患者さんの尊厳を守り、個別性を重視したケアを目指しながら、スタッフを如何に支えていくか課題は大きく、責任の重さを感じております。

当院のスタッフは、明るくひたむきにケアしており、徘徊の激しい患者さんへの関わりや入浴を拒否する患者さんの上手な誘導など、まさしくプロの関わりをしています。また、褥瘡（床ずれ）が出来やすい患者さんが多い中で、褥瘡有病率は、昨年4月に8%だったものが今年5月には2.1%と大きく低下しました。これは、スタッフによる日頃の地道なケアの賜物であると思います。

今年度は、4月に病棟師長の配置交代があり、新任の看護主任も3名

誕生しました。主任たちは、他病棟で半日

業務を経験する「病棟研修」を自ら計画しました。他病棟の運営管理を学ぶというものです。病棟の業務を見直す前向きな姿勢に意欲が伺え頼もしく思っています。また、介護主任は時間外の研修として「介護技術講座」を企画し意欲的に取り組んでいます。第1回目の5月26日は約30名のスタッフ参加で大変活発な研修会となりました。各病棟、師長・看護主任・介護主任を中心に団結して、より良いケアを提供していきたいと思っております。

当院には、認知症看護認定看護師が在籍し、教育師長と病棟師長を兼務し活躍していますが、県内外から要請を受け研修会の講師としても活動しています。さらに、認知症ケア専門士の資格を取得して頑張っているスタッフもいます。一方、「疲れています」という声も聞かれ、仕事の満足度が低下している現状もあり、マンパワー確保は課題です。いくつかの課題はありますが、スタッフと共に「この病院を選んで良かった」と思っていただけのような病院作りに向け前進したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## 施設課

和光病院の発

足後6年、施設設備のトラブルにより、患者さん



石本 小島

んやスタッフの生活環境に支障を来すことが無いよう、機器・機械の異常を判断できるベテランと、汗を流して賢明に働く若手とのコンビで病院の裏方としての業務を遂行している部門です。

施設課と言うよりは、営繕として院内外の修繕、そして患者さんの憩いの場である庭園等の環境整備に携わる毎日ですが、施設課としての基本方針は、改善・修繕等の要望に対しては「無理・できない」ではなく、できる方法を考え、検討して実行することを目標にしています。

ご家族の皆様におかれましては、御来院の際に、当院の施設設備・環境についてお気づきの事がございましたら是非ご一報下さい。

## 総務課

総務課の仕事は大きく分けて次の3つに分類されます。まず、スタッフの募集



本多 松田

馬場 塚本 町野事務長 寺島

・採用、入退職管理、給与計算、労務・勤怠管理、福利厚生などの人事業務、次に、入金処理、月次・四半期・期末の決算業務、予算・実績管理等の経理業務、そして、什器・備品管理、契約管理、文書管理、物品の発注・調達、環境整備、院内美化等の総務業務です。患者さんのための事務を担当するのが医事課、病院組織の事務を担当するのが総務課とお考え頂くとわかりやすいと思います。

総務課は7階にあり、患者さんやご家族の皆様と直接顔を合わせられる機会が少ないため、あまり馴染みのない部署かもしれませんが、事務長以下スタッフ一同働きやすい職場環境作り、円滑な病院運営のために日々努力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

ご家族によるミニコンサート

2階病棟

2階病棟では、4月29日にご家族によるコンサートが開かれました。これは、その前日にお誕生日を迎えた患者さんのお祝いのために、ご主人がそのお仲間と企画されたもので、1時間半の演奏をしていただきました。当の患者さんだけでなく、

2階にご入院中の患者さん皆さんと一緒に、演奏に聞き入っていました。



演奏に聞き入る患者さん達

また、他の病棟からも患者さんの参加があり、賑やかで楽しい時間となりました。何より、お誕生日に合わせたご家族の熱い思いを感じ、嬉しく感謝の思いです。今後も機会がありましたら患者さん、ご家族が共に楽しめるような会を企画していきたいと思えます。



ボールゲームを通して

3階病棟

21年度も、季節感のある桜餅・柏餅作りなどの食事レクリエーションや、患者さんのご家族ボランティアによるフルートの演奏会、スタッフによるハワイアンコンサートや、懐かしい音楽を聴いたり歌ったりしながら記憶に語りかける音楽療法など、患者さんに喜びや楽しみを感じていただけるよう、様々な企画を提供しております。



ボールゲームに熱中する患者さん

中でも、担当のOT（作業療法士）により日々行われる体操やボールゲームなどでは、日ごろでは見られない生き生きとした笑顔や、驚くほど良い反射神経、患者さん同士のチームプレーを目にする事ができます。ご家族の皆様も、参加していただき楽しいときを共に過ごしていただければ幸いです。お待ちしております。

柏餅作り

4階病棟

四季を感じ季節を楽しむ企画（食事レクリエーション）として、5月19日に柏もち風の和菓子を患者さんと一緒に作りました。ホットプレートで薄皮を焼き、

餡子を載せて柏の葉を巻きお皿に飾りました。多くの患者さんとスタッフ、栄養科、OT（作業療法士）が一丸となり、全員分を完成させました。

いつもと違う真剣な表情で作る患者さんの姿を見ることが出来ました。また、完成した柏餅を食べる時は、素敵な笑顔を見ることが出来、とても有意義なときを過ごす事ができました。これからも色々な企画（食事レクリエーション）を考えみんなで行っていききたいです。



柏餅作りに真剣に取り組む患者さん達

ラーメンを作って食べよう

5階病棟

ある患者さんが「ラーメンを注文した筈だけど」と繰り返しておっしゃっていたので、このレクリエーションを思いつきました。麺の上に、好きな具をトッピングしていただき、熱々のスープをかけて召し上がっていただくという企画です。

具をたくさん用意出来たので大変喜ばれ、笑顔と共におかわりをされる患者さんや「おいしい」という言葉も聞かれました。麺通の医師の参加もあり、いつもの盛り上がりが見られました。

今回の企画は『患者さんの声』から生まれました。患者さんは日頃、食べたい物やしたい事があっても声にできない不満を抱えておられる場合もあり、今後も病棟レクリエーションという形で反映できるようにしていきたいと思っています。



「おいしい」と麺通の医師



ラーメンを盛り付ける患者さん



与野公園バラ園

6階病棟

単調になりがちな日々にも、少しでも季節を感じてもらおうと、今年もお花見や苺のジャム作り等、患者さんに喜んでいただける様企画をしてきました。

今回は、晴天に恵まれた5月に与野公園のバラ園へ数名の患者さんとご家族の皆様と共に行ってきました。翌日にバラ祭りを控えた園内は人で賑わいを見せ、大小多種のバラが満開でした。患者さんは「きれい！」を連呼されながら園内を散策し晴天の下アイスを食べたり、写真を撮ったり笑顔溢れるとても楽しい時間を過ごしていただけたようでした。

バラ園での写真は病棟にも掲示してありますのでお越しの際は是非ご覧ください。



スタッフと患者さん



患者さんとご家族様



患者さんと病棟看護師長

家族教室・家族のつどい

医療福祉相談室

当院では、ご家族の皆様を対象に、認知症について理解を深め、介護や暮らしに役立てていただくため、家族教室を開催しています。

今年度は、6回の予定で病気やケア、患者さんの心理やリハビリ、利用できる制度や施設、権利擁護について等、院長をはじめスタッフがお話をさせていただきます。

また、今年度より、毎月定例で第4金曜日午後「家族のつどい」を行っています。これは、昨年の家族教室のアンケートで、同じ介護体験を持つご家族同士、話し合いや交流、情報交換の場も必要というご意見を多くいただき、気軽にお話しできる会としてはじめました。

いずれも、ご家族の皆様がひとりで悩むことなく少しでも元気を創り出せる場になることを願うものです。詳細は1階にご案内を用意してあります。どうぞお気軽にご参加ください。

老年看護学実習を終えて

埼玉医科大学保健医療学部看護学科  
四年 綾部なつ美

5月に6階病棟で実習させていただきました。

3週間の実習を通して、認知症の患者さんと接することの難しさにとまどうこともありましたが、患者さん一人一人の個性をふまえたケアの重要性を学ぶことができました。

患者さんの言動に常に「何故だろう」という気持ちを持ち患者さんへの理解を深めるとともに、否定せずに接し、患者さんが安心してきる環境を整えることの大切さを認識しました。

病棟スタッフの方々からご指導いただき、とても楽しく、そして学びの深い実習となりました。和光病院で学んだことをこれからの看護師としてのケアに活かせるようにしていきたいと思えます。



患者さんにとって快適な

機械入浴を目指して!

2階病棟

2階病棟では、患者さんにとってもっと快適な入浴援助を検討したいという意見が多くありました。特に機械入浴では、患者さんの安全の確保とゆっくり、ゆったりした入浴を目指して、スタッフ間で改善策の検討を重ねました。

これまで、患者さんを車椅子から抱き抱えて移動しておりましたが、スルスルマット（福祉用具）を使用してベッドからストレッチャーへ、ストレッチャーから機械浴用ストレッチャーへの移動に変えました。

また、援助にかける時間の見直しを行いました。結果、患者さんが安楽にゆっくりと入浴することができ、更にはこれまで以上に爪や耳などの細かい部分の整容ができるようになりました。

今後も、患者さんにとってよりよいケアの改善を迫及していきたいと思っております。



ベッドからストレッチャーへ



機械系の様

### 院内美化

総務課 塚本 洋子  
つかもと ようこ

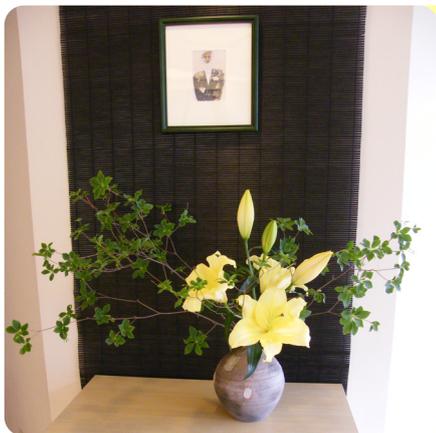
院内に花を生けたり、絵を飾ったりしています。お雛様を飾っているとき外来の患者さんが話しかけてくれました。

「私が生まれ育った阿波徳島では、お雛様を飾っている家はちらし寿司やお菓子を用意して近所の子供たちに振る舞ったものよ。

学校で今日はどこの家に行こうか、明日は誰の家が良いかなんて、それはもう楽しかったですね」と懐かしそうに言われました。

季節の中に織り込まれた記憶や、幼い頃の思い出の引き出しがちよつとだけ開いたのかもしれない。

せん。



7階エレベーターホール

### ワコー・ブルー・マリナー

副院長 白濱 龍興  
しろはま たつおき

ハワイアンバンド「ワコー・ブルー・マリナー」を結成してから2年半が経ちました。初めての演奏は、平成18年12月、6階病棟でのクリスマスパーティーで「珊瑚礁の彼方へ」や「アロハ・オエ」などの6曲でスタートしました。

落合（看護師：キーボード）、岡田（看護師：エレキギター）そして白濱（医師：スチールギター）の三人編成で、毎月各病棟を順に回り、また時に他施設の行事でも演奏しています。回数も30回を超えました。

また、新しく2人のメンバー、関口（医療福祉相談室）と本多（総務課）

が加わりました。ハワイアンには欠かせないウクレレのパートです。メンバーそれぞれ日常業務をこなしながらの練習・演奏会、みんなが揃う日を調整

するのにも一苦労しております。

そしていつも一緒に楽しそうにフラダンスを踊ってくれるKさん、ウクレレで参加してくれるYさん、患者さん

達の若かりし頃の歌、働き盛りの時の歌、いつまでも喜んで頂けるよう頑張りたいと思います。



### 第三者評価委員会

看護部長 藤森 美栄  
ふじもり よしえ

『食事介助は座ってやりましょう』と改善の動きがあった頃、第三者評価が後押しとなり、今は座つての食事介助が定着してきました。

第三者評価を受けて1年になりますが、5名の方々に交代で約2時間、病棟の構造・備品・清潔さや装飾等に関する事、患者さんの様子、スタッフの態度、仕事ぶり等について多面的な視点による評価を、レポートで提出していただいています。視察時間も朝や食事時間帯、夕方あるいは休日と様々で評価を受けた回数は18回となりました。

レポートは、各責任者を通じて全スタッフが閲覧出来る体制をとり、それぞれの部署で業務改善に反映させています。また、委員の方々と同院管理者との合同会議も2回（9月17日・4月24日）開催し、活発な意見交換を行いました。今年度も、更なる改善に向けスタッフ一同努力していく考えです。

### ご意見箱

事務長 町野 謙  
まちの ゆずる

1階のご意見箱に、「スタッフの心無い言葉に嫌な思いをさせられます。家族は我慢しています。お客様としての意識を持って心から接してください。」というご意見、また、電話にてスタッフの勤務態度についてのご指摘を頂戴いたしました。ご意見・苦情を真摯に受け止め、今後ともスタッフの教育に当たってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

認知症について

認知症は、歳を重ねるほど発症する人が多くなる傾向にあり、高齢社会を迎える国々では、多くの方がこの病気を抱えながら暮らすようになると考えられています。有効な予防法や完治にいたる治療法がまだ確立されていない現状にある、誰もがなりうる病気である、ということが言えます。けれども、振り返って考えてみますと、そもそも人はみなだれもが、認知症に限らず病みうるものでありましょう。自分はいま、たまたま病気でないだけなのだ、という冷厳な事実を自覚することは、人を本当の謙虚さへと導いてくれるように思います。



神経内科医  
西村 敏樹

この自覚はまた、医療の立ちかえるべき原点をも示してくれます。ともに病みうる人間として、ともに老いゆく人間として、相談にのり、手当てをする、難しい病気でもなんとかしようとするということ。現在ある、治療やケアの手段を、患者さんの身になって、組み立てて工夫することが、われわれ専門職の使命であると思います。そして、ここ20年を振り返ってみても、認知症の患者さんに提供できる治療やケアの手段は、格段の進歩をとげています。次の20年はさらに実り豊かなものにして行きたいものです。

さてこの「患者さんの身になって」という医療の原点は、しかし実際は容易なことではありません。機会あるごとに、自分が認知症となつて、こうしたときに、どうしてほしいだろうか、胸に手をあてて聞いてみることにしてみますが、現実には自分がそうなたった時には、今とはまったく違った思いが去来するかもしれないという疑念を拭い去ることはできません。むしろ、そうした疑念を失わずに、日々の診療に臨みたいと思っています。

新型インフルエンザ対策

今春より、社会的にも多くの話題となった感染症として、新型インフルエンザがあります。メキシコにて初めて確認されてから短期間で全世界に拡大しており今日に至っております。当初の感染者は入院隔離、治療また濃厚接触者はホテルなどで隔離し経過観察を行う方針が厚生労働省から示され、混乱と不安が満ち溢れていました。新型インフルエンザの性質などがはつきりするに従い、季節性インフルエンザと同様の対応でよいとの指針が示され、現在は小児に重要な感染症に関しては、国からの指針が多くの疾患で示されています。

当院では、入院されている方が多くが高齢でもあり、耐性ブドウ球菌 (MRSA)、緑膿菌、結核、疥癬等監視しながら季節性インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンを使用し予防にも配慮しております。また、



個人の健康状態を良好に維持することに努めるとともに、今回のような呼吸器感染症であれば、手洗い、うがいの励行とともに、「咳エチケット」を守ることで大切と推奨されております。

- ・咳、くしゃみが出たら、ほかの人につかないためマスクをしましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- ・鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにごみ箱に捨てましょう。

・咳をしている人はマスクの着用をお願いします。

正確な最新の情報を得る努力をするとともに、自分でできることから始めましょう。



感染対策委員会  
診療技術部長  
浅見 勉



沖縄県石垣島「ハイビスカス」  
写真撮影者 塚本 洋子



「和光病院だより 5号」 発行日 2009/7/10 編集・発行 和光病院広報委員会  
〒351-0111 埼玉県和光市下新倉 5-19-7 TEL 048-450-3311・FAX 048-466-0811  
URL <http://www.wako-hos.jp> E-mail [info@wako-hos.jp](mailto:info@wako-hos.jp)

### 第三回 和光病院公開講座開催予定

平成20年に引き続き今年も「和光病院公開講座」――認知症について――を左記のとおり開催する予定です。今回の会場は、和光市民センター（サンアゼリア）小ホールをお借りしての開催となります。広い会場ですので多数の方にご参加いただけます。お誘い合わせのうえお気軽に足をお運びください。

講師／和光病院 院長 斎藤 正彦  
会場／和光市民文化センター（サンアゼリア小ホール）  
開催日／H21年9月16日（水） 14時～16時  
参加費／無料

### ご案内

H21. 8. 3-8. 7	かき氷（院内）
H21. 9. 16（水） 14：00-16：00	和光病院公開講座
H21. 11月頃	焼き芋（院内）
H22. 1月頃	餅つき（院内）

### 編集後記

暑中お見舞い申し上げます。入院中の患者さんの状況をスタッフの目を通して知っていただく、「和光病院だより」も第5号までまいりました。表紙の写真もスタッフの応募の中から毎号選んでおります。まさに全て手作り、病院の広報誌として定着してきた感があります。患者さんご家族の皆様と病院のスタッフが同じ目線で接し、情報を共有する、大変なことだと思います。この広報誌が少しでもお役に立てば幸いです。

暑さ厳しい折、読者の皆様にはくれぐれもご自愛下さいますように。

副院長 白濱 龍興  
しらばま たつおき

広報委員長／白濱龍興 広報副委員長／横島義則

広報委員／・町野讓 ・藤森美栄 ・栗原眞須美 ・本多学 ・本池慶子 ・香田万里 ・小坂由衣 ・落合真弓  
・関口智美 ・山本明美 ・大山恵 ・松野正起 ・本田直弥 ・内木えみ子 ・吉武美智子